

カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	根こぶ病	根くびれ病	べと病	白さび病	軟腐病	黒腐病	白斑病	黒斑細菌病
フジドーL FL	M1		-	-								◎
アミスター20FL	11		7	2				◎			◎	
メジャーFL	11		1	3			◎	◎				
オラクル顆水	21		*a	2	◎							
オラクル粉	21		*a	2	◎							
ライメイFL	21		3	3				◎				
ランマンFL	21		3	3			◎	◎				
			*c	1	◎							
フロンサイド粉	29		*b	1	◎							
ネビジン粉	36		*b	1	◎							
ネビリュウ粉粒	36		*a	1	◎							
ヨネポン水	M1		7	4			◎		◎	◎		
ダコソイル粉	M5		*a	1	◎	◎						
ユニフォーム粒	4・11		*a	1				◎				

*a:は種前 *b:は種又は定植前 *c:は種時

カ

ブ

カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ナ モ グ リ バ エ 類	カ ブ ラ ハ バ チ ガ	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ダ イ コ ン ハ ム シ
スピノエース顆水	5		1	3	◎	○										
エスマルクDF	11A	*c	-										◎			
オルトラン粒	1B		21	1	◎									◎		
ジェイエース粒	1B		21	1	◎											
ダイアジノン粒5	1B		*a 45	1 2											◎	
ネキリエースK粒	1B		30	2										◎		
マラソン乳	1B		14	4	◎		◎	◎		◎						
アディオン乳	3A		1	2						◎						
ガードベイトA粒	3A		3	4										◎		
フォース粒	3A	劇	*b	1												◎
アクタラ顆溶	4A		1	3	◎											
アクタラ粒5	4A		*b	1	◎											
アドマイヤー顆水	4A	劇	21	2	◎											
アドマイヤー1粒	4A		*b	1	◎											
アルバリン顆溶	4A		3	2	◎											◎
スタークル顆溶	4A															
アルバリン粒	4A		*b	1	◎											◎
スタークル粒	4A															
ダントツ溶	4A		3	3	◎											
ダントツ粒	4A		*b	1	◎											
モスビラン顆溶	4A	劇	21	1	◎			◎								◎
フィールドマストFL	4E		1	2				◎	◎	◎	◎		◎		◎	
ディアナSC	5		1	2					◎	◎		◎				
アニキ乳	6		1	3					◎							◎
アフファーム乳	6		3	2					◎							
コテツFL	13	劇	1	2			◎		◎		◎					
ハチハチ乳	21A	劇	7	1	◎		◎		◎				◎		◎	
アクセルFL	22B		3	2					◎	◎						◎
フェニックス顆水	28		1	2					◎				◎			
ブレバゾンFL5	28		1	3					◎							
プロフレアSC	30		1	3					◎	◎		◎	◎		◎	◎
グレーシア乳	30		7	2					◎							◎
ブレオFL	UN		3	2								◎				

*a:出芽時 *b:は種時 *c:発生初期(但し、収穫前日まで)

カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前	・発生地では次のいずれかの薬剤を土壌混和する。 オラクル顆粒水和剤 150～300g/10a 100 L/10 a ダコソイル粉剤 20～40kg/10 a (作条) ネビジン粉剤30kg/10 a (全 面) 20kg/10 a (作条) フロンサイト粉剤 30～40kg/10 a (全面)	近年、抵抗性品種が開発されている。また、ダイコンではほとんど被害を見ない。
白さび病	播種前	・次の薬剤を施用する。 ユニフォーム粒剤 9kg/10a	白さび病は6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多い。
	生育期	1. 密植を避け、排水、通風を良好にする。 2. 雨よけ栽培を行う。 3. 発生初期に次の薬剤を散布する。 ランマンフロアブル 2000倍	
	収穫期	・被害株や収穫後の残渣はていねいに処分し、畑にすき込まないようにする。	
炭疽病	生育期および収穫期	・白さび病に準じた耕種的防除を行う。	炭疽病は7～9月の気温の高い時期に、特に発生が多い。
黒腐病	播種前	・ベットをやや高目のカマボコ型にし、排水をはかる。	6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多く、収穫間近に急にまん延する。
	生育期	・発生前から次の薬剤で予防する。 ヨネボン水和剤 500倍	
アブラムシ類	生育期	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 マラソン乳剤 1000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000倍	モモアカアブラムシは5～6月と8月下旬～11月に発生が多い。 ニセダイコンアブラムシは9月に急増し、初冬まで発生が続く。
ハモグリバエ・ナモグリバエ	生育期	1. 防虫ネット(目合い0.8mm以下)等を利用した被覆栽培で、成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 ^{#1} 5000倍 ハチハチ乳剤 ^{#2} △ 2000倍 マラソン乳剤 1000倍	^{#1} ハモグリバエ類での登録 ^{#2} ナモグリバエのみでの登録 △被害を生じる恐れがあるので、幼苗期には使用しない。

カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
カブラハバチ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	ニホンカブラハバチとカブラハバチが主な種で、春と秋に発生が多いが、一部は夏にも発生する。
コナガ	準備期	1. 寒冷紗等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 広範な圃場にコナガコン◇を使用する場合。ハウス内の天井に近い位置に固定する。ハウス:100～400m/10a(100mリール)。株上に沿い、作物上に支柱等を用いて固定する。露地:100～110m(100mリール)。適当な長さの支柱等に取り付け、圃場に配置する。露地:200本/10a(20cmチューブ)。 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルク D F * 1000～2000倍 アファーム乳剤 2000倍 ハチハチ乳剤△ 2000倍	発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。覆下栽培では冬季でも幼虫の加害が見られる。 ◇使用目的:交尾阻害。 使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 * 野菜類での登録 △薬害に注意し幼植物期には使用しない。
アオムシ	発生初期 生育期 収穫期	エスマルク D F * 1000～2000倍を散布 アクセルフロアブル1000倍を散布 ディアナ S C 2500～5000倍を散布	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録
ヨトウムシ	生育期 発生初期 収穫期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスター B T * 1000倍 エスマルク D F * 1000倍 サブリーナフロアブル*1000倍 コテツフロアブル2000倍	5～6月と9～11月に発生する。若齢期は下の葉裏にかたまっているため薬剤をていねいに散布する。老熟幼虫は薬剤が効きにくい。 *野菜類での登録
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	準備期 発芽直後 発生初期 生育期	1. 寒冷紗等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. エスマルク D F * 1000倍 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 ハチハチ乳剤△2000倍	夏が高温乾燥のとき多発する傾向がある。生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *野菜類での登録 △薬害に注意し幼植物期には使用しない。
キスジノミハムシ	生育期 収穫 21 日前まで 収穫3 日前まで	・発生が多いときには、発芽直後から次の薬剤のいずれかを散布する。 モスピラン顆粒水溶剤2000倍 アルバリン顆粒水溶剤2000倍 スタークル顆粒水溶剤2000倍	粘土質地帯で発生が多い。 幼虫は土中で根を食害する。 成虫は葉に小孔をあけて網目状にする。